



国立公文書館	
分類	
	返 赤
配架番号	3 A
	14
	81-5

U.S.S.
カ
ラ
ン
ト
中
計
版

3-JUL-201
Copy 1959

昭和二十年十月二十六日

(マ司令部報告資料)
南方軍軍政地域(除比島)ノ領業(除石油)事情

DR COLLINS
CHG.

陸軍参謀部
備録

国立公文書館	
分類	
配架番号	81-5

Army controlled ~~the~~ mines
in the South Seas Areas

46645

本記録ハ林中佐ノ記憶ニシテ必シモ正確ヲ期シ難シ正確ナル資料
ハ現地軍政總監部ニ就キ承知セラレ度

第一編 旬

緬甸ニ於ケル情勢ハ「ボードウイン」領ノ銅、亜鉛、「キウチ」領
山ノ錫、「タングステン」及「ダホイ」地帯ノ「タングステン」領山ヲ
主要ナルモノトス
而シテ今次戦争ノ結果「キウチ」領山ヲ除キ徹底的破壊ヲ受ケ採掘
始メ爲ニハ相當ノ日時及資材ヲ要セリ
然ルニ緬甸ニ於ケル爆撃激烈トナリ莫ニ英印軍ノ進攻開始サレシヨリ
鑛山資材等ニ「ボードウイン」ノ工存機械ヲ需部緬甸ニ移動シ兵器ノ
現地自活ニ充當セリ
以下銀業ノ概要ヲ記述ス
一 鉛、亜鉛
ボードウイン領山（軍直營）

- (1) 戦前ニ於ケル状況一紙
- (2) 占領時ノ破壊状況

動力

マンサム發電所 (水力) 1000 KW (全機)
コンニャン發電所 (水力) 2000 KW (少破)

(デール) 1000 KW (全機)
(火力) 1500 KW (全機)

精鍊施設

操業中動力ヲ停止セル爲凝結

坑道

「ポンプ」停止ノ爲水漬トナリアリ

復舊

一九四三年四月ヨリ一部ノ操業ヲ開始シ^租操業ヲ開始スルヤ爆撃ヲ受ケ操業意ノ如クナラサリキ

(二) 英印度軍反攻時ノ狀況

「ボードウイ」ノ操業ヲ斷念シ其工作機械ヲ南部緬甸ニ移動シ兵

器ノ修理及現地自活ニ使用セルモ細部ノ狀況不明ナリ
ニ「タンダステン」及錫

(1) 「モーチ」礦山(小林精業)

(イ) 生産額

戦前 五五七三屯 (SN 40%、W₀₃ 三二%) (一九三九年)
一九四二年 四二〇屯 (十一月ヨリ操業開始)
一九四三年月産計畫 三〇〇屯ナリシモ實績ハ一〇〇屯乃至一
三〇屯程度ナリ

(ロ) 經營

自動車及爆藥不足ニヨリ礦物ノ搬出意ノ如クナラス遂次操業ヲ
壓縮セリ

(2) 「ダボイ」礦山(三菱精業)

(イ) 礦山ノ特質

戰前ハ礦山數三三〇ニ及フ時小鑛山ニシテ占領后ハ數ネ三百乃

至四百ノ嶺山麓動セルモ動力用ノ重油運搬及食料運搬用ノ自動車不足シ逐次操業ヲ減少セリ
 之カ動力左ノ如シ

水 力 四二七〇 KW (破壊)
 ディーゼル 三六〇〇 KW

(出) 生産

一九四三年生産計畫

錫精礦 七〇〇〇 屯

タングステン精礦 六〇〇〇 屯

一九四三年額ノ實績

一〇〇 屯乃至一五〇 屯 混礦 / 月

三アンチモン

(i) 「ダビ」 鑛山 (三菱礦業)

(ii) 位置 「モールメン」 東南方

(iii) 生産 一六、〇〇〇 屯 (SB 一%)

一九四三年間二二〇 屯 産度ナリ

一九四三年ニハ雨期ヨリ操業ヲ開始シ一五〇 屯 (SB 五%) ヲ

坑内手堀ニヨリ實施スル計畫ナリシモ實績不明

(2) 「モンズ」 地區

(i) 位置 シヤン州タウンジノ附近

(ii) 礦區及運搬量

礦 區 所 有 者 運 搬 量 (一九四三年)

モンサン ライカ侯 五七〇〇〇 (SB 五%) 二〇 屯 / 月

ナホツク モンズ侯 三二〇〇〇 (SB 一〇%) 三〇 屯 / 月

(iii) 買鐵擔任 三菱礦業

四 マンガン

ホーボン嶺山

(1) 位置 シヤン州

(2) 埋藏量 二〇〇、〇〇〇屯 (三〇〜四〇%)

(3) 生産 二〇〇屯乃至五〇〇屯/年

五雲母及水昌

「モコツク」嶺山 (日南産業)

(1) 位置 「モンミ」ト」南方

(2) 品質及生産

雲母ハ特ニ良質ニシテ航空機及電波兵器ニ使用セル爲ニ増産ニ

努メ一級品 (日本規格五號) 月産二屯ヲ出セルコトアルヲ採掘

額九屯乃至十二屯程度ナリキ

水昌ハ品位不良ニシテ無線機ニ使用スルヲ得サリキ

第二局 來

馬來ノ礦田ハ殆ント破壊セラレテリ故ニ復舊ノ力復舊ハ内地遷移後

チ編「ボーキサイト」礦田ヲ第一級トシテ復舊管見有金屬ノ探礦

開發ニ努メタリ

又現地ニ於ケル鑛生量ノ爲木炭鑛産ノ發掘ト共ニ鐵礦田ノ復舊及開發

ヲ實施セリ

一「ボーキサイト」

内地遷移船腹ト發掘シ年間九〇万トシテ一九四二年一月至一二〇万屯

(一九四三年)ヲ目途トシテ發掘セリ

又別ニ「ビンクタン」鑛ニ年間一〇万屯ノ「アルミナ」工場建設ヲ企

圖シ「新」ノ約半量ハ集積セルモ職況等ニ鑑ミ之ヲ三万屯ニ減メ次

テ之ヲ中止セリ

(イ) 生産

一九四三年実績

ビントアン島（古河産業） 七〇万

南 岸（石原産業） 一〇万

マラツカ（石原産業） 一五万

(ロ) 品位

「ビントアン」島白「ボーキサイト」品位良好ニシテ品位減少ト共

ニ之カ採掘ニ勉メタリ

二 錫

(イ) 嶺山設備ノ破産状況

概観スルニ嶺山設備ニ採掘設備ノ破産状況ハ地質前ニ見レバ南部ニ至ルニ從ヒ其ノ程度甚大トナリ經營者別ニ見レバ英系會社ノ嶺山一殆ンド全部採掘停止ハ華僑會社ノ嶺山一殆ント全部グラベルボンプ法又ハ水力法ニヨリ設備程甚大ナリ

東テ大分ニ於テ「ペラ」湖「カンパー」湖附近ハ採掘設備甚關重要ニシテ工務前ニ於テ「ペラ」湖「カンパー」湖等ノ設備比較的ニシテ「ペラ」湖全体ヨリ見テ比較的短時間ニ於テ可謂ナルモノ然レモ七〇見當ト思考セラルル「カンパー」湖等ニ於テハ英系會社ノ手ニ行リ又ハ英令ヲ以テ設備前ニ破産シタルモノニシテ「ペラ」湖「カンパー」湖「ローラ」湖「ボーン」湖中心トスル採掘設備ニハ「メグリズンピラン」湖ニ於ケル採掘船ハ殆ンド全部沈没又ハ揚却ノ上設備ノ重要部分ヲ破損シ設備所亦直チニ使用ニ堪フルモノ少ク復舊容易ナラザルモノアリ然ルニ

華僑所管鑛山ハ全馬來ヲ遍ジテ規模少ナク其ノ破産セラレタル部分モ修理可能ノモノ多シト思惟サルルハノナリ

(四) 各洲別状況
馬來ニ於ケル鐵鑛業ハ「ペラ」「セラシゴール」ニ溯ラ大衆トシ馬來全産額ノ約九〇%ヲ産出他洲ハ産額僅少ノ爲論ナルニ足ラザルモ参考迄ニ左ニ逐次概要ヲ摘録ス

全 國 錫 生 産 高

洲 名	一九三八年	一九三九年	一九四〇年
ペラ 洲	二四九三八 (三三、〇五七)	二六四五六 (三三、〇四一)	四八、九六六 (六四、八五五)
セラシゴール	一、六三三 (一、六七三)	一、五九九 (一、〇〇七)	二、七三六 (三、〇八七)
ネグリスン ピラン	一、六六一 (二、二四〇)	一、二九九 (一、一七一)	三、七〇五 (三、三八三)
バハ ン	一、九三三 (二、五二七)	一、七七一 (二、二七九)	三、二四四 (四、二九七)

其 ノ 他 二、〇五四

六、六一六
(九、一六〇)

スト ッ ク

四、四八八
(五、八三八)

合 計

四三、二五九
(五七、二九七)

五三、九五五
(七四、一〇〇)

(六) 鑛山用發電所

ペラ 洲

チエングロイ發電所 (火力) 二、七〇〇 KW

パトガヂ發電所 (火力) 二、二〇〇 "

マリナリ發電所 (火力) 三、七〇〇 "

何レモガバナートバート取外サル修理容易

セラシゴール洲

ブンザイ發電所 (火力) 三、四五〇 KW

ウルランガット發電所 (水力) 二、五〇〇 "

何レモ大破ブンザトハ發電機五臺中一臺ノミ何用ニ堪ユ
(二)採錫船臺數

ヘ 七二

セラングートル 四〇

ネダリスン 一〇

ピラン 一

バ 一

(附)生 産

一九四三年ニハ生産目標金屬總額五万市ヲ目指トシテ採礦セル

モノ一九四四年ニハ其實績ニ鑑ミ金屬總額三万三千市程度ヲ目標ト

シテ實施セリ

へ精 鍊

「ベナン」、「シングポール」及「パンカ」高精鍊所共ニ破壊

セラレタルニ鑑ミ「パンカ」島ノ製材ヲ閉居シ先ツ「ベナン」

ヲ次テ「シングポール」ヲ完成シ後者ハ電氣錫ノ精鍊ノ外面鉛

錫ノ製法改良ヲ可能ナラシムル如ク施設セリ

精鍊所ノ企業増進左ノ如シ

ベ 京洋鐵山株式会社

シ 三井鐵山株式会社

三、稀有金屬

「クアランプール」附近(石原産業株式会社會社)及「イポー」附近

(南洋鐵山株式会社)附近ニ産出シ「ジュルコン」「タンタル」(「コロ

バイト」礦)、モナズ」礦ヲ採掘シ終戦迄ニ四、〇〇〇噸乃至六、

〇〇〇噸採掘セシタルモノノ兩キモ詳細不明ナリ

一九四四年初頭ヨリ南洋ノ「タンタル」不足ニ鑑ミ專ラ「コロ

イト」礦ノ採掘ニ努力セリ

四、石 炭

馬來半島ニハ優良炭ノ産出無ク僅ニ「クアランプール」近傍「バヤ

炭坑存在スルノミ一シテ船舶減少ト共ニ之カ産出ニ努メタリ

「ハトアラン」炭坑ノ概要左ノ如シ

(i) 生産

一九四三年生産目標年間五五万

一九四三年三月頃生産実績月四万

(ii) 炭質及發熱量

揮発性炭 五、〇〇〇カロリー

(iii) 用途

鐵道、發電其ノ他一般

五 鐵

馬來ノ鐵山ハ良好ニシテ最大ナルヲ「ツング」鐵山（日本製鐵株式會社）トシ生産目標年約一〇〇万噸ハ河鐵山ニ依存ス
他ノ鐵山トシテハ「メルシン」北方（飯塚製鐵株式會社）「イボ」
「日本製鐵株式會社」及「タイピン」
「日南製鐵株式會社」等アリ
製鐵事業トシテハ差當リ木炭ヲ以テ小型鐵ニヨル木炭銑ノ製造ヲ企

圖シ馬來合計生産三万吨程度ノ施設ヲ完結セリ
主要ナルモノ左ノ如シ

地	名	電ノ大サ	會社名
ツング		三〇電爐	日本製鐵
タマンガン		一五電爐	日本製鐵
バタフオース		二〇電爐	日南製鐵
イボ		二五電	日本製鐵
イボ		三電	日本製鐵

其ノ他

第三 爪哇

爪哇ニ於ケル鐵山一五湖ヲ除クハ他處均ニ比シ大ナル發見ヲ受ケ
非ズ隨ヒテ復舊ノ開發ニ亦比較的容易ナリキ
爪哇ニ於ケル鐵業ノ主要ナルモノハ錳鐵ニ「マンガン」、銅、鉛、
亜鉛等ニシテ石炭鐵類ハ若干產出セルモ錳鐵ノ需要ヲ滿スニ至ラズ
殊ニ歐州運送セル一九二二年頃以後ニ至テハ「マトラ」及南「ボ
ルネオ」ニヨリノ石炭輸入力漸減シ上國自トナルニ爪哇ニ於ケル
石炭ノ採掘急ヲ要スルニ至レリ
之ガ爲理地ニ於テハ「パタビヤ」西方「バヤ」炭鑛ヲ開發スルト共
ニ之カ輸送ヲ容易ナラシムル爲「バヤ」鐵道ノ建設ニ着手シ一九四
四年四月之ヲ完結セリ
以下鐵業ノ概要ヲ記述ス

一 石炭

「バヤ」炭礦

埋藏量

二千九百九十九萬噸

生産目標

三〇萬噸/年（一九四四年）

生産実績

三〇萬噸以下/年

備考

眼前需要へ八〇万

三 確 考

ニ 確 考

(1) カワブテ嶺山

生産目標

六、〇〇〇噸（一九四四年）

生産実績

六、〇〇〇噸（一九四三年）

(2) 「テラガボ」嶺山

生産目標

二〇、〇〇〇噸（一九四四年）

生産実績

八、〇〇〇噸（一九四三年）

（註）カワブテ嶺山ハ現存炭約二〇萬噸ニシテ一九四五年以後ハ

探採ヲ期待スルヲ得ズ

三 「マンガン」

「マンガン」礦ハ主トシテ自給需要ヲ準備セルモ部外意ノ如クナ

ラザルニ依リ生産ヲ制限スリ（一九四四年）

山名	埋藏量	生産目標	生産実績
カラフンガル	二、〇〇〇噸	一、〇〇〇噸	一、〇〇〇噸
ワリシバン	二五〇噸	一〇〇噸	一〇〇噸

四 確 考

「ソ」嶺山ノ探採ヲ増加スルト共ニ精製設備ヲ完成スリ

細部状況不明

五 確 考

山名	埋蔵	精製生産量(九四)
「チンドンダン」	六〇、〇〇〇	二五〇(五〇%)
「コロトツ」	六七〇、〇〇〇	七二〇(六八%)

六砂 鏡

馬來鐵礦ノ移入熱火區トナルヘキヲ予知シ探礦ノ結果左ノ結果ヲ得タ一九四四年ニハ一萬五千噸ノ生産目録ニシ探採セルモ實績不明ナリ

品名	賦存地帯	埋蔵量	品位
	「ボゴール」洲シヤツパンクローロン	二〇、〇〇〇、〇〇〇噸	五〇%

第四スマトラ

「スマトラ」ハ優良ナル石炭ノ南方諸地ニ在ル補給源タリ然レ共一九四三年頃ヨリ中部「スマトラ」北西海岸ヨリノ探採注意ノ加クナラザルニ到リ同區ノ探採ヲ減少ナルニ至レリ
而シテ馬來ノ興鑛ト勸業シ粘結炭ノ補給ヲ新ニ必要トセルヲ以テ「バダン」東方「ロガス」炭坑ヲ開發シ且「バダン」ヨリ「ロガス」ヲ經テ「バカンバル」ニ通スル「スマトラ」横斷鐵道ノ築設ニ着手シ一九四四年末頃ニハ「ロガス」東端「ロガス」炭及「オンピリ」炭「バダン」「セメント」ノ輸送等ニ要セントス

生 炭

(1) ブキツトアサム炭坑(三井物産株式會社)
能カトシテハ年間一三〇萬噸程ナルニ一九四三及一九四四年頃ハ概々八〇萬噸ヲ生産セリ

炭質及發熱量

一 一般炭 七、〇〇〇—八、〇〇〇キロリ

(四)「オンピリン」炭坑(北海道炭坑汽船株式會社)

能力トシテハ年間八〇万馬力ナルヲ意旨中毎時最大五〇万馬力

炭質及發熱量

一般炭 七、〇〇〇—八、〇〇〇キロリ

(六)「ロガス」炭坑(三菱礦業株式會社)

生 産

一九四三年中期ヨリ操業ヲ始メ一九四四年ハ年間五万馬力目標

二 實施セリ

炭質及發熱量

弱粘結炭 六、〇〇〇—七、〇〇〇キロリ

三 鐵及「マンガン」

「ブキツトランガル」礦山(日本鐵業株式會社)

「テルグニボン」近傍ニアリ南部「スマトラ」ノ東地鐵礦ヲ目標ニ開發セルモ細部ノ狀況不明

三 白及白金

「トト」礦山(石原産業株式會社)

北部「スマトラ」ニアリ交通不便ノ爲小量(年間八五〇程)ノモノヲ一〇(底程)ニ採掘スルニ止リタリ

四 鉛、亜鉛

「シネード」礦山

「ペンクローレン」洲ニアリ同洲ノ東端トシテ採掘セラレアリシ然レニ詳細ノ狀況不明ナリ

第五 北ボルネオ

北「ボルネオ」ニ期待シアリシハ内陸運送用水銀及比高方面給用ノ

石炭ニ在リ然レモ交際狀況頗ル不良ナルト懸念不足ノ爲開發意ノ如ク進捗をサリキ

一水 銀

一「テゴラガ」トシテ礦山

生産最大能力一九四三年頃ハ年額一五萬程を實現一二年ニシテ其後内地需要ノ増加ニ鑑ミ一九四四年ニハ年額二五萬ヲ目標トセルモ電力不足ノ爲一五萬程ノ實現ナリキ

二石 炭

北「ボルネオ」ノ石炭ハ東部ニシテケル島島南石炭ノ開發ノ外「クチン」近傍粘結炭ノ開發ヲ目標トシテ實現ナリキ

粘 結 炭

サド ン 粘結炭 六〇〇〇一カ〇〇〇 一九四三年実績月産一〇〇〇噸 一九四四年目標年産百五十噸

シランテツク 一般炭

ムアラ

粘結炭 六〇〇〇

一九四三年開發セルモ爾后ノ
九四三年実績月産六萬噸
九四四年目標年産三〇〇萬噸

三「チンチモン」

「シグ」近傍及「パウ」近傍ニテ夫々「アンチモン」ヲ發見シタルモ大ナル開發ヲ實現セズ

81-5

3- JUL 20
Copy 1959

昭和二十年十月二十六日

(マ司令部報告資料)
南方陸軍軍政地域(除比島)ノ礦業(除石油)事情

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

本記録ハ林中佐ノ記憶ニシテ必シキ正確ヲ期シ難シ正確ナル資料
ハ現地軍政總監部ニ處キ承知セラレ度

第一編 旬

編旬ニ於ケル鎗藥ハ「ボドワイン」山ノ麓、
山ノ麓「タングステン」及「ズボイ」地帯ノ「タングステン」山ノ
主要ナルモノトス
而シテ今又鎗藥ノ持來「モウチ」山ヲ除キ徹底的破壞ヲ受ケ暴業
始ノ爲ニハ相當ノ日時及資材ヲ要セリ
然ルニ編旬ニ於ケル鎗藥激烈トナリ更ニ英軍ノ進攻開始サレシヨリ
鎗山資材等「ボドワイン」ノ工作機軸ヲ全部編旬ニ移動シ兵器ノ
現地自備ニ充當セリ
以下鎗藥ノ概要ヲ記述ス
一 鎗、亞鎗

ボドワイン山(軍直轄)

(1) 襲前ニ於ケル状況ニ紙

(2) 占領時ノ破壊状況

動力

マンサム発電所 (水力) 10000 KW (全壊)
コンニャン発電所 (水力) 2000 KW (少破)

(火力) 1500 KW (全壊)
(水力) 1000 KW (全壊)

精錬施設

操業中動力ヲ停止セル爲ニ設備

坑道

「ポンプ」停止ノ爲水漬トナリアリ

(イ) 復舊

一九四三年四月ヨリ一部ノ操業ヲ開始シ~~但~~操業ヲ得ヲ目標トセルモ
操業ヲ開始スルヤ爆撃ヲ受ケ操業意ノ如クナラサリキ

(ロ) 英印度軍兵攻撃時ノ状況

「ボードウイ」ノ操業ヲ断念シ其工作機械ヲ南部緬甸ニ移動シ兵

器ノ修理及現地自活ニ使用セルモ細部ノ状況不明ナリ

二、「タンクステーション」及揚

(1) 「モーテ」礦山(小林礦業)

(イ) 生産額

戦前 五五七三屯 (SN 100%) W₀₃ 三二% (一九三九年)

一九四二年 四二〇屯 (十一月ヨリ操業開始)

一九四三年月 三〇〇屯ナリシモ実績ハ一〇〇屯乃至一

五〇屯程度ナリ

(ロ) 運 營

自動運及毒薬不足ニヨリ礦場ノ採出意ノ如クナラス遂次操業ヲ

壓縮セリ

(2) 「タボイ」礦山(三菱礦業)

(イ) 礦山ノ特質

戦前ハ礦山愈五三〇ニ及フ存小礦山ニシテ占領后ハ概ネ三百乃

至四百ノ礦山發動セルキ動力用ノ重油運搬及食料運搬至ノ自動
車不足シ遂次操業ヲ縮少セリ
之カ動力左ノ如シ

水 力 四二七〇 KW (被取)
ディーゼル 三六〇〇 KW

(B) 生産

一九四三年生産計畫

錫精礦

七〇〇〇 屯

タングステン精礦

六〇〇〇 屯

一九四三年額ノ実績

一〇〇〇 屯乃至一五〇 屯 濃度ノ月

ミアンチヤン

(1) 「ダビー」礦田 (三菱礦業)

(1) 位置 「キールメン」東南方

(B) 運搬量 一六、〇〇〇 屯 (SB 一%)
(C) 生産 戦前八年間二二〇 屯程度ナリ
一九四三年ニハ兩期ヨリ採集ヲ開始シ一五〇 屯 (SB 五〇%)ヲ
坑内手堀ニヨリ實施スル計畫ナリシキ実績不明

(2) 「モンズーン」地區

(1) 位置 シヤン州タウンジ一附近

(B) 礦區及運搬量

礦 區 所 有 者 產 量 (一九四三年) 出 産 計 畫

モンサン ライカ侯 五七〇〇〇 (SB 五%) 二〇 屯/月

ナホツク モンズーン侯 三三〇〇〇 (SB 一〇%) 三〇 屯/月

(1) 買 領 權 任 三菱礦業

四マンガン

ホーボン鑛山
地位置 シヤン州

(四) 埋藏量 二〇〇、〇〇〇屯 (三〇、〇〇〇%)

(ハ) 生産 二〇〇屯乃至五〇〇屯/年

五 雲母及水晶

「モコツク」鑛山 (日南産業)

(イ) 位置 「モンミ」南方

(ロ) 品質及生産

雲母ハ特ニ良質ニシテ航空機及電波兵器ニ使用セル爲ニ増産ニ

努メ一級品 (日本規格五號) 日産二屯ヲ出セルコトアルヲ探掘總

額九屯乃至十二屯程度ナリキ

水晶ハ品位不良ニシテ無線機ニ使用スルヲ得サリキ

第二馬 來

馬來ノ礦山ハ殆ント破潰セラレアリ 昔時之カ復舊ハ内地遷移後即

チ「ボーキサイト」鑛山ヲ第一ニシテ其次チ眞鍮鑛ヲ有金鑛ノ探掘

開發ニ努メタリ

又現地ニ於ケル鐵生土ノ爲ニ表能ノ開發ト共ニ鐵鑛山ノ復舊及開發

ヲ實施セリ

「ボーキサイト」

内地遷移後トシテ年商九〇万屯 (一九四二年) 乃至一二〇万屯

(一九四三年) ラ目標トシテ實施セリ

又別ニ「ピクタン」鑛山ニ年間一〇万屯ノ「アルミナ」工場建設ヲ企

圖シ、^{運送} 船中ノ約半量ハ集荷セシキ 船中運送ニ努ミ之ヲ三万屯ニ改メ

テ之ヲ中止セリ

華僑所定山ハ全馬來ヲシテ少ク其ノ破テセラレタル部分ヲ修理可能ノモノ多シト思惟サルルニナリ

(四) 各洲別状況
馬來ニシテケル管領ハ「ペラ」「セラシ」「ゴール」ニ別テ大衆トシ馬來全產額ノ約九〇%ヲ占ム惟獨ハ其價値少ノ爲除タルニ足ラザルニ參考地ニ在ル逐次需要ヲ採録ス

洲名	一九三八年	一九三九年	一九四〇年
ペラ	二四九三八 (三三、〇五七)	二六四五六 (三三、〇三一)	四八、六六六 (六四、八五五)
セラシ	一一、六三三 (一、六七三)	一一、五九九 (二〇、〇七八)	二五、七三六 (三三、〇八七)
ネグリ	一、六三三 (一、六三三)	一、六三三 (一、六三三)	二、七〇五 (三、三八三)
ゴール	一、九三三 (二、五三七)	一、九三三 (二、五三七)	四、三二四 (四、三二四)

其ノ他 二〇五四 (六、一六六) (六、一六六)

ストック 一 (四、八三八) (四、八三八)

合 計 (四三、二五九) (四三、二五九) (八三、四九五)

(六) 嶺山用發電所
ペラ洲
チエングロイ發電所 (水力) 二七、〇〇〇 KW
バトガヂ發電所 (火力) 二二、〇〇〇 "
マリナリ發電所 (火力) 三、七〇〇 "
何レモガバナートバート取外サル修理容易
セラシゴール洲
ブンザイ發電所 (火力) 三、四三〇 KW
ウルランガット發電所 (水力) 二、五〇〇 "

(二) 探銀船臺數
 何レモ大破ブンザーハ發電機五臺中一臺ノミ復原ニ堪ユ

セランゴール	七二
ネグリスン	四〇
ピラン	一〇
バハ	一

（附）生 産

一九四三年ニハ生産目標金額約五万兩ヲ目指トシテ探銀セル
 モ一九四四年ニハ其實績ニ鑑ミ金額約三万三千兩程度ヲ目標ト
 シテ實施セリ

へ精 鍊

「ベナン」、「シンガポール」及「バンカ」高精鍊所共ニ破綻
 セラレタルニ鑑ミ「バンカ」高ノ原料ヲ他所ニ先ツ「ベナン」
 ヲ次テ「シンガポール」ヲ完産シ後者ハ精鍊ノ精ノ外並價

諸ノ探銀船ヲモ可憐ナラシムル如ク施設セリ

東洋鐵山株式会社
 三井鐵山株式会社

三、稀有金屬

「クアランプール」附近（石原産業株式會社）及「イポー」附近
 「東洋鐵山株式会社」附近ニ出シ「ジュルコン」、「タンタル」、「コロ
 ンバイト」等、モナズ」等ヲ探採シ終産額ニ四、〇〇〇兩乃至六、
 〇〇〇兩探採セラレタルモノノ如キモ詳細不明ナリ
 一九四四年初頭ヨリ「タンタル」不足ニ際シ專ラ「コロンバ
 イト」等ノ探採ニ努力セリ

四、石 炭

馬來鐵山ニハ優良炭ノ産出額僅ニ「クアランプール」附近「バヤ
 炭坑存在スルノミシテ船舶減少ト共ニ之カ増産ニ努メタリ

「ハトプラン」炭の概要左ノ如シ
 (4) 生産

一九四三年生産目標年間五五万

一九四三年三月頃生産実績月四万

(5) 炭質及發熱量

揮 青 炭 五、〇〇〇カロリー

(6) 用途

鐵道、發電其ノ他一般

五、鐵

馬來ノ鐵山ハ良好ニシテ最大ナルヲ「ツング」鐵山(日本鐵業株式會社)トシ生産目標年間約一〇〇萬中八〇萬噸ハ河鐵山ニ依存ス
 他ノ鐵山トシテハ「ノルシン」北方(飯塚鐵業株式會社)「イボ」
 「日本鐵業株式會社」及「タイピン」(日南鐵業株式會社)等アリ
 製鐵事業トシテハ差當リ木炭ヲ以テ小型爐ニヨル木炭銑ノ製造ヲ企

圖シ馬來合計生産三万吨程度ノ施設ヲ完成セリ
 主要ナルモノ左ノ如シ

地	名	爐ノ大サ	會社名
ツング		三〇万吨	日本鐵業
タマング		一五万吨	日本鐵業
パタノオース		二〇万吨	日本鐵業
イボ		二五万吨	日本鐵業
イボ		三万吨	日本鐵業
			其ノ他

第三爪 哇

爪哇ニ於ケル鑽山（石油）ノ除クハ他地ニ比シ大ナル利益ヲ受ケ
非ズ隨ヒテ復舊ノ開鑿ニ亦出資的容具ナリキ

爪哇ニ於ケル鑽業ノ主要ナルモノハ摩打ガ「マンガン」、銅、鉛、
亜鉛等ニシテ石炭鑽業ハ若干產出セルモ其産ノ需要ヲ滿スニ至ラズ
殊ニ戰況進行セル一九四二年頃以後ニ至テハ「アマトラ」ガ南「ボ
ルネオ」ニヨリノ石炭輸入ガ船隻運上困難トナルモ爪哇ニ於ケル石
炭ノ探掘急ヲ要スルニ至レリ

之ガ爲理地ニ於テハ「バタビヤ」西方「バヤ」炭鑽ヲ開鑿スルト共
ニ之ガ輸送ヲ容易ナラシムルガ「バヤ」鐵道ノ建設ニ着手シ一九四
四年四月之ヲ完結セリ
以下鑽業ノ概要ヲ記述ス

一石 炭

「ハヤ」炭礦

埋藏量

二千万屯乃至三千万屯

生産目標

三〇万屯/年（一九四四年）

生産実績

三〇万屯以下/年

備考

四、五〇〇一五、〇〇〇

鑛前需要ハ八〇万

三 硫黄

(1) カワヅテ鑛山

生産目標

六、〇〇〇（一九四四年）

生産実績

六、〇〇〇（一九四三年）

(2) 「テラガボーダ」鑛山

生産目標

二〇、〇〇〇（一九四四年）

生産実績

八、〇〇〇（一九四三年）

（註）カワヅテ鑛山ハ鑛石量約二万屯ニシテ一九四五年稼働ハ

探査ヲ期待スルヲ得ズ

三 「マンガン」

「マンガン」鑛ハ主トシテ内陸部ニシテ鑛産ヲ準備セルモ配分意ノ如クナ

ラザルニ依リ生産ヲ制限セリ（一九四四年）

鑛山名	月産能力	月産量	貯蔵量
カラフンガル	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
クリリバン	一五〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

四 錫

「ソド」鑛山ノ探査ヲ追加アルト共ニ精製施設ヲ完成セリ

詳細状況不明

三 錫及銅鑛

山名	埋藏	埋藏量	埋藏位置
チコンダン	六〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	
チコトツ	六七〇、〇〇〇	七二〇、〇〇〇	

六砂 鐵

馬來鐵礦ノ移入運次開闢トナルヘキヲ予見シテ、鑛ノ結果左ノ結果ヲ擧ケ一、九四四年ニハ一、五千萬磅ノ生産目標ニシテ探掘セルモ實績不明ナリ

賦存地帯	埋藏量	埋藏位置
「ボゴール」湖シヤンバンクターロン	二〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇

第四ママトラ

「スマトラ」ハ優良ナル石炭ノ南方諸島地帯ニ在ル補給源タリ然レ共一九四三年頃ヨリ中部「スマトラ」地方西海岸ヨリノ船隻意ノ如クナラザルニ到リ同地帯ノ補給ヲ減少スルニ至レリ
而シテ馬來ノ興鐵ト勸業シ精結炭ノ補給ヲ新ニ必要トセルヲ以テ「バダン」東方「ロガス」炭坑ヲ開發シ且「バダン」ヨリ「ロガス」ヲ經テ「バカンバル」ニ通スル「スマトラ」横斷鐵道ノ築設ニ着手シ（一九四四年末頃ニハ「ロガス」以東完結）「ロガス」炭及「オンピリ」炭「バダン」「セメント」ノ輸送等ニ要セントス

(1) プキツトアサム炭坑（三井山株式會社）

能カトシテハ年産一三〇万噸程ナルモノ一九四三—一九四四年頃ハ概ネ八〇万噸ヲ生産セリ

炭質及發熱量

一 般 炭 七、〇〇〇、一八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

(四)「オンピリン」炭坑(北海道炭坑汽船株式会社會社)

生 産

能力トシテハ年間八〇万噸程ヲナルモ戰争中年間最大五〇万噸

景底二〇万噸程ヲ採掘セリ

炭質及發熱量

一 般 炭 七、〇〇〇、一八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

(イ)「ロガス」炭坑(三菱實業株式会社會社)

生 産

一九四三年中期ヨリ操業ヲ始メ一九四四年ハ年間五万噸ヲ目標

ニ實施セリ

炭質及發熱量

弱粘結炭 六、〇〇〇、一七、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

三 鐵 及 「マンガン」

「ブキツトランガル」鞍山(日本鐵業株式会社會社)

「テルクニボン」近傍ニアリ南部「スマトラ」ノ現地製鐵ヲ目標ニ
開發セルモ現部ノ状況不明

三 白 及 白 金

「トト」礦山(石原炭産株式会社會社)

北部「スマトラ」ニアリ交通不便ノ爲小量(年間八五%程)ノモノ
「〇」(鹿程)ニ採掘スルニ止リタリ

四 鐵、重 鉛

「シキ」鞍山

「ペンクーレン」洲ニアリ瀋陽ノ東部トシテ採掘セラレアリシ程細
細ノ状況不明ナリ

第五 北ボルネオ

北「ボルネオ」ニ期待シアリシハ内通選用水銀及比高方面供給原ノ

石炭ニ在リ然レモ交際状況頗ル不良ナルト船舶不足ノ爲開發意ノ如ク進捗セザリキ

一水 銀

一「テゴラガ」ズン」破山

生産最大能力九四三年頃ハ年間一五萬程ヲ實現シ一二〇〇シテ其後尙尙需要ノ増加ニ従ヒ一九四四年ハ年間二五萬ヲ目標トセルモ電力不足ノ爲一五萬程ヲ實現ナリキ

一石 炭

北「ボルネオ」ノ石炭ハ東部ニ於ケル出石炭ノ開發ノ外「クチン」近傍粘結炭ノ開發ヲ目標トシテ實現セリ
主要ナルモノ左ノ如シ

一 粘結炭

サド ン 粘結炭 六〇〇〇一七〇〇〇 一九四三年実績月産一〇〇〇噸
一九四四年目標年産三〇萬噸

シランテツク 一般炭
ムアラ 弱粘結炭 六〇〇〇

一九四三年開發セルモ爾后ノ
一九四四年開發目標生産六萬噸
一九四五年開發目標生産三〇萬噸

三「チン」チモン

「シグ」近傍及「パウ」近傍ニテ夫々「アン」チモン」ヲ發見シタル
モ大ナル開發ヲ實現セス



